



平成 25 年 5 月 10 日

各 位

会 社 名 焼津水産化学工業株式会社
代 表 者 名 代表取締役社長 山本 和広
コード番号 2 8 1 2 (東 証 1 部)
問 合 せ 先 常務取締役経営統括本部長 齋藤 滋
T E L 0 5 4 - 2 0 2 - 6 0 3 0

「中期経営計画の策定」について

当社はこのたび、平成 25 年度（平成 26 年 3 月期）を初年度とする新 3 カ年中期経営計画を策定しましたので、その概要をお知らせいたします。

記

1. 背景と目的

当社グループは、「天然素材の持つ無限の可能性を追求し、“おいしさと健康”を通して豊かな生活に貢献します」の企業理念のもと、調味料事業と機能食品事業を 2 本の柱として、積極果敢に挑戦し、成長することを目指して中期経営計画『Challenge & Growth』（平成 22 年度～平成 24 年度）に取り組んでまいりました。

当社を取り巻く事業環境は、国内は消費の低迷が続き、低価格志向により依然として厳しい価格競争が続いている半面、中国・ASEAN を始めとするアジア諸国は急激に経済が成長しています。こうした中で、当社グループは新たな中期経営計画を策定し、これまで取り組んできた事業構造改革で得た筋肉質な収益構造を維持しつつ、自らが“変化”し、新しいことに“挑戦”していく企業風土を醸成しながら、更なる企業価値向上と持続的な成長の実現に努めてまいります。

2. 新中期経営計画のスローガン

新中期経営計画のスローガンは『Change & Challenge』です。“成長への再挑戦”という位置付けで、“変化”し、新しいことに“挑戦”していきながら、当社グループで過去最高の連結営業利益の更新に挑戦します。

3. 新中期経営計画『Change & Challenge』の基本方針

『Change & Challenge』では、4 つの柱（i. 既存事業の深化、ii. 新商品（サービス）開発、iii. 新規顧客開拓、iv. 新事業領域開拓）に経営資源（ヒト・金・物）を集中投入し、成長戦略を描いていくことを基本方針とし、以下の重点施策を推進していきます。

4. 重点施策

(1) 既存コア事業の深耕、事業継続計画（BCP）対応

事業構造改革により筋肉質になった収益構造を維持すると共に、当社の主力とする調味料事業及び機能食品事業を更に深耕します。また、平成 24 年 6 月に静岡県の内陸部に取得した工場用地に平成 26 年度中の稼働を目指して新工場の建設を行い、生産効率向上と事業継続計画（BCP）を着実に進めていきます。

(2) グローバル展開と新たな海外拠点（東南アジア）の設置

当社は、成長著しい中国への足掛かりとして平成 16 年に 100%出資子会社「大連味思開生物技術有限公司」を設立し、海外展開を進めてきました。グローバル展開の第 2 弾として、今後成長が見込まれる東南アジアのマーケットを視野に入れ、ASEAN 地域に海外拠点の設立を目指します。

(3) 新事業への挑戦

新たな成長エンジンの確立のため、当社の得意とする「おいしさと健康」のカテゴリーに加え、その周辺領域である農業分野、環境分野、化粧品分野などへの事業拡大に挑戦します。

(4) グループ経営基盤の強化

グループ経営基盤の強化を目指し、子会社の事業構造改革を進めるとともに、本体・子会社とも経営指標を生かした管理を行い、全体最適の観点から収益力の向上と相乗効果の創出を図ります。

5. 定量目標

新中期経営計画『Change & Challenge』は、“成長への再挑戦”という位置付けで、当社グループで過去最高の連結営業利益の更新に挑戦します。また、資本効率の向上を目指し、ROE（自己資本利益率）の目標を設定します。

（単位：百万円）

	平成 25 年 3 月期（実績）	平成 28 年 3 月期（目標）	増減
連結売上高	20,813	24,800	+3,987
連結営業利益	1,391	2,200	+809
ROE（自己資本利益率）	4.9%	8.0%	+3.1pt

※過去最高連結営業利益 1,942 百万円（平成 13 年 3 月期）

※本計画・目標は、当社が現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、今後の事業環境、経済状況の変化等、様々な要因により異なる結果となる場合があります。

以上